

研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 民事紛争のための説明可能な解決結果予測モデル

2. 個人研究者名

山田 寛章（東京工業大学 情報理工学院 助教）

3. 事後評価結果

本研究は、自然言語処理技術を利用し、民事紛争内容の記述から紛争解決の予測結果とその根拠となる説明を与えるモデルの開発を目的とし、紛争解決結果予測タスク定式化、データセット構築、事前学習済言語モデルの構築、さらには根拠抽出と解決結果予測実験の4課題を計画した。いずれの課題についても、達成した、大きく達成した、の範疇にあり、全体の達成状況は極めて良好であり、期待以上である。

法分野からのフィードバック等を有効に活用し、当初計画以上に研究が進展しているだけでなく、法ドメインデータを用いた言語学習により、法関係以外に関する予測精度が向上する等の予想外の成果も得られている。これらの成果は他分野への波及効果が期待できる。

2本の英語論文が国際会議のProceedingsに掲載され、2本の日本語論文が学会論文集に掲載されている。他にも、一般向け雑誌等への寄稿、出張講義を行うなど、アウトリーチ活動も積極的である。科学技術に関しては既に大きな成果をあげており、社会・経済への波及効果に関しては、将来的に本課題で開発された技術が社会実装された際には非常に大きなインパクトが期待できる。